

再春ボランティア新聞

No. 1 2019年2月発行

つくし病棟

つくし病棟では10月17日(水)に療育訓練室にて、「運動会」を行いました。10名のボランティアの皆様には患者さんの付き添いやレクリエーションの準備、片付けなどのお手伝いをして頂き、大変盛り上がりました。特に、YMCA~ヤングマン~のダンスでは、会場が一体となって踊ることができ、患者さんやご家族も楽しまれていました。患者さんにとって、ボランティアさんと一緒に楽しい雰囲気を経験できること、共有できることは、とても良い交流の機会となっています。顔馴染みのボランティアさんが来られると、うれしそうに笑われたり、身体を揺らしたりされ、ボランティアさんが来られることを楽しみにされています。

YMCA~ヤングマン~



風船ゲーム



フォークダンス



南病棟

南病棟では10月27日(土)に生活支援棟にて、南病棟患者自治会「桜華生」主催の「桜華祭」という秋祭り&文化祭が行われました。約25名のボランティアさんに患者さんの付き添いや車椅子移動、昼食配膳、会場整備などのお手伝いをして頂きました。また、患者さんやスタッフと一緒にステージを盛り上げくださり、終始熱気あふれる会場となりました。長期療養の患者さんにとって、地域の方との交流はとても新鮮で、毎年楽しみにされています。ボランティアさんのおかげで、たくさんの患者さんの笑顔が見られました。

オリエンテーション



患者さんの付添、移動支援



会場装飾



患者さんの話し相手



* ボランティアさん紹介 *

私のボランティア回顧記（ボランティア歴10年を振り返って）

那須末治



定年後、暇つぶしの趣味に明け暮れていました。それはそれで楽しくはありました。それを見ていた民生委員をしていた妻の勧めで始めたのがボランティアをするきっかけです。それまで他人の世話をするなど考えたことは一度もありませんでした。しかし、小学生への絵本の読み聞かせからスタートし、下校見守り、イベントの手伝いなど次々とボランティアに挑戦しました。そこでは利用者さんやスタッフの方の笑顔とありがたい言葉に感動の連続でした。それで人の役に立っていることを実感していましたが、さらに真剣にボランティアをすることを決定づけたことがありました。それはあるイベントの手伝いをしていた時の筋ジス患者さんの言葉でした。「もしあなたが健康で時間を持て余しているなら試しに進行性の病を持つ患者の気持ちになって、もっと一日一日を熱く冷静に生きて欲しい。私たちにとって一日は普通の人何倍も重みがあるのです」と淡々と絞り出すような声で話される患者さんの言葉を聞いたとき、如何に自分の愉しみのみを考えて暮らしていたかを猛省し恥ずかしく涙が出ました。残された人生、もっともっと人の役に立ちたい気持ちが決定的になった瞬間でした。ボランティアより趣味を大事にする人は多いけれど周囲の為に奉仕して得られる感動や喜びは特別なものです。健康な人は積極的にボランティアに参加して欲しいと思います。



平成30年10月~12月

* ボランティア集計 *

※敬称略

団体名（定例活動）	活動内容	つくし病棟	南病棟	延べ人数
ゆめふうせん	療育支援	3		3
アクロス	療育支援	12	(12)	12
国際ソロプチミスト熊本	療育支援	10		10
ひまわり文庫A	縫製	17		17
ホスピタルクラウン	療育支援	3		3
	合計	45	(12)	45

団体名（行事）	活動内容	つくし病棟	南病棟	延べ人数
九州中央リハビリテーション学院	行事支援		2	2
合志市社会福祉協議会	行事支援	27	6	33
熊本YMCA学院	行事支援		1	1
熊本駅前看護リハビリテーション学院	行事支援		9	9
メモリー熊本	行事支援		3	3
	合計	27	21	48

個人ボランティア	活動内容	つくし病棟	南病棟	延べ人数
	麻雀、読み聞かせ、裁縫など	32	30	62



ご協力ありがとうございます。
今年もよろしくお願ひします。

ボランティアお問い合わせ
療育指導室長 植村（内線 8311）